

安曇野市穂高交流学習センター運営委員会 会議概要

1	協議会名	平成23年度第3回安曇野市交流学習センター運営委員会
2	日時	平成 24年 3月 27日 (火) 午後1時30分から午後3時20分まで
3	会場	明科総合支所2階 大会議室
4	出席者	本山委員長、野中副委員長、宮下委員、神谷委員、小平委員、山本委員、牛山委員、米澤委員、鈴木委員
5	市側出席者	丸山教育長、小松教育次長、原野文化課長、赤堀穂高交流学習センター所長、山崎豊科交流学習センター所長、深澤図書館係長、山田文化振興係長、村上文化振興係主事
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成 24年 4月 16日

協 議 事 項 等

1	会議の概要	(1) 開 会 (小松教育次長) (2) 協 議 ・平成24年度事業計画について ・その他について (3) 閉 会 (小松教育次長)
2	協議概要	(1) 平成24年度事業計画について 事務局より穂高交流学習センター及び豊科交流学習センターについて報告 「運営方針」について 委員・・利用者の声（意見、感想など）は各施設のイベント等の色々な場面で把握しているのか。また、そういったことは反映されているのか。 事務局・図書館にはご意見箱を設置している。また、イベントの際には必ずアンケートを実施している。回収率は100パーセントとは言えないが、頂いた意見は運営に反映していけるよう努力している。 例えば、図書館フェスタの際に実施したアンケートの中で今後開催を希望する図書館主催事業として「大人のためのお話し会」が挙げられた。このご意見は、平成24年度の新規事業として採用させていただいた。 これまで実施したアンケートは、その都度集計し、まとめている。次回の会議の際に集計したものを提示させていただく。 委員・・イベント参加者等に広くアンケートを実施する他にも、事務局側でより焦点を絞った専門的なアンケートも必要ではないだろうか。 委員・・アンケートを行うのも結構だが、それはあくまで来館者の評価であって、それで全てを判断して進めていくのはどうか。 できるだけ多くの方に見ていただき、利用していただく中で感じたことをサービスに反映するよう考えていただきたい。 今回お伺いしたいのは、事務局として交流学習センターの認知度についてどの程度だと感じているかということ。また、市民参加の基盤づくりについて、企画立案の段階でどの程度関与しているのかを示していただきたい。 信州大学との連携講座として「あづみの情報学セミナー」というのも計画されているようだが、どうしてこのような企画が出たのか分からなかった。そういったことを踏まえても、もっと注目度を上げる試みが必要ではないか。市内にも専門的知識を持った方は大勢いると思うので、そういった人材を活用するような方策を考えることで注目度も高まるのではないか。

委員・・関連して、穂高交流学習センターでは展示ギャラリー貸出日数の23年度比20パーセント増を目指すということを目標に掲げているが、今年度はどれくらいの貸出があったのか説明していただきたい。また、穂高地域以外の鑑賞者を全体の3割、若年層の鑑賞者を全体の2割へ拡大を目指すとするが、現状がわかりとこの目標の設定の意図がわからない。現状を踏まえた課題と利用者拡大についての計画があれば示していただきたい。

穂高交流学習センターの図書館部門について、目標に「郷土資料のデジ化」を挙げているが、この用語について説明していただきたい。購入希望図書の申込み件数及びどの程度希望が叶えられているのか両施設とも示していただきたい。

事務局・展示ギャラリーの貸出日数については、文化振興系の企画展事業の実施にあたり一般の方への貸出の希望に対応できない期間があった。8割程度しかニーズと需要を満たしていないという感覚的感想があり、そのような数値を設定した。新年度は、文化振興系の展示事業を2割程度削減し、一般の方の貸出のニーズに反映させ、利用度を高めていきたいと考えている。

穂高交流学習センターについては、全市的に利用はあるが、穂高地域については利用者が当初より多くなってきている。図書館利用カードの登録者の割合も穂高地域に集中している。豊科図書館も新しくなったので、地域ごとに利用者が分散してきているのではないかと。

デジ化という用語についてだが、図書館における視力に障害がある方へのサービスは点字より音声録音が主流になってきており、全盲の方が減少しており、音声により情報を得ている方が多くなってきているというのが実態である。

デジとは、視覚障害者や普通の印刷物を読むことが困難な人々のためにカセットに代わるデジタル録音図書の国際標準規格として、海外の団体により開発と維持が行なわれている情報システムを表す。

当市の現段階では、広報のデジ化が行えるようになった。

中央図書館については、平均で5～6点、多い時には10点程度のリクエストがある。全市共通で一人当たり年間10点までリクエストが可能である。件数の制限を行うのは、各図書館には蔵書の分類比率の計画があるため、蔵書がある系統に偏ることを防止したいということと、予算の関係とがあるためである。

リクエスト数については、今すぐはお示しできない。

委員・・次回の運営委員会で出していただければよい。

委員・・以前に図書の推薦をしたことがあるが、却下された。図書館協議会でそのことについて報告していただけるものと思いき、傍聴したが、何も報告がなされなかった。図書館専門の運営を検討する場として図書館協議会はあるのだから、利用者からの声はしっかりと伝えていただきたい。また、図書館の職員間でも利用者の声を共有していただけると職員の中からも良いアイデアが生まれるようになるのではないかと。

委員長・利用者の声をいかに吸い取り、刺激を与え、情報を流し、活動を盛り上げていけるかということを経営に活かしてほしい。

委員・・穂高交流学習センター及び豊科交流学習センターの認知度については調査を実施したことがあるか。

こういった施設があるということの意識がまだまだ低いような気がする。認知度が上がれば、企画や事業が活きてくると思う。PRを兼ねて認知度調査を行っていただきたい。

穂高交流学習センター及び豊科交流学習センターで事業計画の擦り合わせ等を行っているのか。

事務局・文化振興系という文化課の中の一つの係が両施設の事業の企画を担当しているので、双方の交流は常に持っている。それぞれの施設に特色がある。穂高交流学習センターは、階段状の観覧席を備えた多目的交流ホールがあり、図書館と同じ1階のフロアで接しているという特徴がある。豊科交流学習センターについては、熊井啓記念館があり、フラットな多目的交流ホールがあり、隣接する豊科近代美

術館と接続ができ、加えて小規模な会議にも対応できる部屋がある。それぞれの施設の特徴を活かして事業を運営している。特に豊科交流学习センターについては美術関係の催事を入れたり、熊井啓監督の映画の上映会等を行っている。穂高交流学习センターについては、音楽関係の催事に適しているということもあり、そういった分野に力を入れている。ただ、現段階では市民の皆様に、豊科交流学习センターの多目的交流ホールではこんなことができるということをお示しするため音楽関係の催事も実施している。

委員・・両施設でそれぞれの催事についてポスターを掲示する等の案内をしていただきたい。

事務局・両施設でポスター等を掲示している。

委員・・以前は、ホールでのイベントについて掲示がなかったので案内を出していただきたいと要望し、両施設ともご対応いただいた。しかし、「ホール使用」という掲示のみで何をやっているのかが分からないことが多い。何をやっているのかが知りたいのに、なぜ催事の内容を書かないのか。

事務局・ちゃんとお示ししている。

委員・・この一週間確認しているが、書かれていない。

事務局・プライベートな使用目的のため、書かないということもある。原則書くようにしている。

委員・・案内掲示の横にポスターやチラシ等も併せて掲示し、目に付くようにするべき。そういった工夫が、認知度・利用度の向上につながる具体的な方法ではないか。

委員・・催しをやっているのに案内が無いというのは問題だと思う。事業計画の中で市民活動支援事業というのが挙げられているが、市内で色々な活動をされている方がいると思う。市民の活動を支援していくのも交流学习センターの大きな仕事だと思う。会場を使わせるという方法によるのではなく、市民の活動がより発展していくことができるように協同するという係わり合いについて努めていただきたい。

市民の作成した印刷物を置く際も、ただ平積みしておくのでは広報にならない。新聞記事等で紹介されていればそういったものを併せて紹介し、立てて置く等の工夫をするべき。交流学习センターで実践する以外にも市内公共施設にも置くのだから、各施設にもそういった点をアドバイスするべき。立てて置くケースも100円～200円程度でつくれる。それが用意できないにしても、広報というのは工夫次第でどうにでもできる。広報により、市民の活動が紹介されていけば、交流学习センターで色々な活動をしていることを通じての広報が広がっていくと思う。結果を出し、それを活用して広報していけばいい。

委員・・貸館対応でのイベントの割合は年間の中で全体のどの程度か。

事務局・穂高交流学习センターについては、土・日曜日、祭日は満杯で、平日も3分の1ほど利用がある。豊科交流学习センターについては、展覧会等で長期間に及んで貸館対応できない期間があるが、土・日曜日、祭日はほぼ埋まっており、それ以外の部屋についても非常に多くの方にご利用いただいている。豊科公民館を利用していた人が、豊科交流学习センターに移ってきたということではなく、引き続き豊科公民館を利用していただきながら、加えて豊科交流学习センターも多くの方にご利用いただいている。豊科地区のみならず、全市的利用が増えたと言える。また、公民館に比べて制約が緩やかなので市外の方の利用もある。

委員・・展示事業を2割程度削減し、一般の方の貸出の利用度を高めていきたいと仰っていたが、事業計画を見ると交流ギャラリーでのテーマ展示というもので年間埋まってしまっている。展示ギャラリーでの年間展示計画を広報や施設内での掲示等により示していただき、市民に利用を呼び掛ける等により利用がしやすくなるよう配慮していただきたい。運営方針にも市民活動の支援を掲げているのだから、積極的にやっていただきたい。

委員・・大きなイベントを貸館により実施する場合、あきらかに駐車場が足りなくなるといことが予想される場合、有料で近隣の企業の駐車場を利用者負担により借り

なければならないというのはおかしい。駐車場借用の費用負担を利用者がするのではなく、駐車場の借用が必要であると認められる場合、施設側で用意する必要があるのではないか。ご検討いただきたい。駐車場整備で、施設職員が対応に出ることはあるが、駐車場の絶対数が200弱とのことなので、図書館利用者から苦情が出るというのも聞くので、貸館利用者分の駐車スペースは別できちんと確保すべきである。駐車スペースがないと思うと利用者は遠退く。

委員長・豊科交流学习センターは豊科近代美術館と駐車場を共有しているので、両施設でイベントが重なると混雑しているよう感じる。

委員・安曇野赤十字病院の利用者が豊科交流学习センターの駐車場を利用していると聞く。何か、看板等で周知を図れないか。

事務局・できるだけ、敷地内の施設利用者以外の駐車はご遠慮いただきたいという掲示は出している。

本庁舎ができた際には、土・日曜日等の閉庁時には本庁舎の駐車場を豊科交流学习センター利用者に開放していただけるように申請を出してある。

委員・本庁舎の工事期間中の混雑が心配。将来的にうまくいくように進めていただきたい。

事務局・穂高交流学习センターの駐車場については、白線で区画してあるところで150台駐車が可能である。混雑時は、敷地内のスペースを利用して職員が誘導しながらできるだけ多くの車を入れられるように対応している。道を挟んだ北側の穂高幼稚園の駐車場にも40台ほどは駐車できる。同じ教育委員会内の施設でもあるので、利用させていただくようにしている。

一時的なイベントのためにたくさんの駐車場を確保するというのは大変なことである。費用対効果の関係もあり、できるだけ現状の駐車場の中で対応したいと考えている。駐車場の拡大については、将来的な検討課題として捉えていきたい。

有料駐車場の借用については、少し時間を頂いて検討したい。

委員・豊科交流学习センターでは、ホール・学習室の稼働率60パーセントを目指すところがあるが、予約と実際の使用とで2回来館しなければいけないのは負担が大きい。電話やインターネット等で予約ができるよう利便化を図ることはできないか。松本市は既にそのような体制ができています。これが安曇野市でも実現すれば稼働率はすぐに上がるのではないか。

事務局・検討させていただきたい。

委員・不特定多数が利用できると思うので、登録制等にしていけばよいだろう。

委員長・交流学习センターでの文化活動は、安曇野市の文化水準を図る一つのバロメーターになると思う。利用者のニーズを把握し、広報等を活用して積極的に宣伝し、市民の皆さんに周知し、利用していただき、竜巻のように上に上がっていく活動になればと思う。また、それが施設周辺地区に止まらず、全市的、市外へと広がっていくような活動にしていっていただければよい。

「事業計画」について

委員・穂高交流学习センターは、同じフロアに展示スペースがあり、ホールがあり、図書館がある。相互に連動して何らかの催しができればいいのではないか。

企画として教育委員会にやっていただくのが相応しいと思っているのは、安曇野市が文学の中でどのように表現されているのか、例えば臼井吉見の『安曇野』とか、紀行文等と当時と現在の風景写真等の記録画像を併せて紹介し、文学で描かれた安曇野を地区毎に分ける等して何回かに分けて展示するというのをやってみたらどうか。まずは、安曇野が描かれた文学作品を収集し、その部分をピックアップし、写真や絵を集める等の一連の作業が必要になるだろう。また、それについての講演等をホールで実施し、図書館所蔵の関連図書を展示したり、貸し出し用の特設スペースを設ける等もあってもよい。市民の中から関係者等に呼び掛けて、実施していただけたらと思う。

事務局・平成24年度については予算の関係もあるので難しい。今のようなたくさん意見を頂いて、次の年度でどのように反映するか検討し、素案を作り、予算を要求する。そして、この要求が通れば、このように事業計画としてお示しできる。こういった流れを踏まえ、たくさんご意見を頂戴したい。

委員・大きなテーマの下、両交流学習センターに止まらず、市内の各施設が有機的につないで実施できるようなものがあるといいのではないかと。

委員・新庁舎建設に向けてのイベントを企画してもいいのではないかと。全市的に企画を盛り上げる必要があるかと思う。一つのポイントとしては、新庁舎ができる前に行うことである。

事務局・一つの核となるものをおいて、各事業を展開していけるよう進めていきたいと思う。今の段階では、その辺りが不十分なために、事業の実施こそしてはいるが、単発的な開催に止まっているというのが現状だと思う。

たくさんの意見を参考にしながら進めていくことが成功に繋がると思うので、是非色々ご提案いただきたい。

委員・前回、広報に力を入れた方がいいということをご提案した。塩尻市の“えんぱーく”は三日間連続で新聞にかなり大きく採り上げられたことがあった。“えんぱーく”は色々課題があって立ち上がったこともあるが、穂高交流学習センターと豊科交流学習センターはそれほど大きな問題もなく開館となったため、市民の関心が無いのではないかと。

委員・安曇野市のホームページのイベントの部分に、各施設のイベントは載ってはいるが、画像が無い。できる限りイベント案内には画像を付けていただきたい。そういったものをパッと目に入るものを見て興味を持つものである。せめて、市のホームページでは実施していただきたい。行かなくても済むほどの量は必要ないので展示風景を載せたり、イベントの内容が分かるものをその都度出していただきたい。

(2) その他について

事務局・前回の運営委員会で委員からご指摘いただいた穂高交流学習センターのグループ研究室の利用についてご報告させていただく。

グループ研究室の話し声や物音が隣の学習室に通りやすいということで、学習室の利用者から静かにしていただきたいというご意見を頂いたため、グループ研究室をご利用の方にはなるべく静かに使っていただきたいということでこちらからお願いをしていたという経緯がある。穂高交流学習センターの設計士に依頼し、調査を行い、原因を明らかにできた。壁からも若干の音は漏れるが、一番の音漏れの原因は天井から音が抜けてきているということだった。そこで、天井に吸音材を敷き詰め、防音性能をかなり強化した。相当効果はあったように感じている。グループ研究室利用者の便宜を図りたいと考えている。現段階の報告は以上である。

委員・防音効果のことはわかった。問題は、利用規定であり、利用の申込みに行った際に一週間前までに申込みが完了していれば使用ができるということをおっしゃられた。研究や勉強した内容は、発表をしていただく等の決まりもあり、なかなか敷居が高い。グループ研究室をどのように利用してほしいと考えているのか。この部屋は無料なので、何らかの制約を掛けたいというのはわかるが、利用者の居住地域によっては穂高交流学習センターを利用したいという思いもあるだろう。豊科交流学習センターのように有料にしてもいいので、もう少し使い勝手がいいようにしていただけないか。稼働率という言葉が挙がっているが、グループ研究室はいつ覗いてみても利用されている形跡が見られない。それなのに、使いたいという思いがあっても何だか制約が多い。そういったことで、検討していただきたいということを以前お伝えしたが、その点についてはどうなっているか。

事務局・元々グループ研究室は、安曇野学講座等のグループでの研究、学習の活動の場を提供したいということで作られた。当然に毎日の利用があるわけではないの

で、空いている時には当初の設置目的に近い形での利用に限って無料で提供してきたという経過である。委員より指摘があったように、空いている時に様々な制限がかかって使えなくなってしまうというのは、私共にとっても設置の目的、施設の目的と照らし合わせて見ても不本意なことである。色々ご意見を頂戴する中で、皆さんにとって使い勝手が良く、利用度が上がるように内規を改めている。ただ、無制限にいつ何時誰でも自由に出入りができて、自由に利用できるというのでは色々な不具合が生じてきてしまうので、ある程度の制約はお願いしていかざるを得ない。

次回の委員会である程度形にしてお示ししたい。

委員・・できるだけ早く内規を改めていただきたい。せつかくある部屋を利用しやすくしていただきたい。

委員・・朝日新聞の3月21日付けの記事に「音楽ホールは人材育成機関」というものが載った。安曇野市でもこういった取組みをしているので、新聞記事に取り上げていただけるような手立てを考えていただきたい。これはアピール度の違いなので、是非取り組んでいただきたい。

以上